

ZEPHYROS

ゼフュロス No.60

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

2014年8月20日発行

ISSN1342-8071



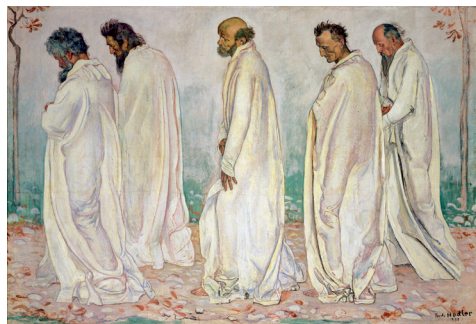
日本・スイス国交樹立150周年記念

フェルディナント・ ホドラー展

Ferdinand Hodler : Towards Rhythmic Images

会期：2014年10月7日（火）～2015年1月12日（月・祝） 企画展示室

企画展 「日本・スイス国交樹立150周年記念 フェルディナント・ホドラー展」



《オイリュトミー》
1895年 油彩／カンヴァス ヘルン美術館
Kunstmuseum Bern, Staat Bern



《レマン湖とジュラ山脈（風景の形態リズム）》
1908年頃 油彩／カンヴァス
アールガウ州立美術館
Aargauer Kunsthau Aarau/Legat/
Bequest Kurt Lindt ©Jörg Müller

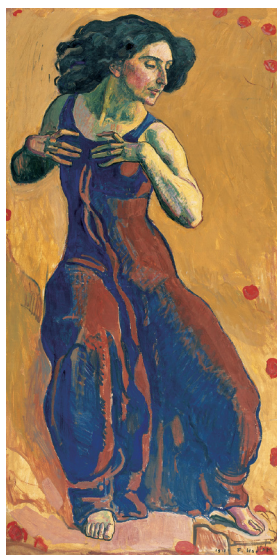
フェルディナント・ホドラー（1853-1918）。このスイス人画家を、みなさんはご記憶でしょうか？

いまから40年前、1975年に、国立西洋美術館では日本初となるホドラー展が開催されています（その後、京都市美術館に巡回）。日本ではもともと、白樺派による紹介や大原美術館に所蔵される《木を伐る人》などをつうじて、ホドラーの名はかなり早くから知られていました。そして、ここ上野で行なわれた40年前のホドラー展は、そんな彼の芸術を、この国にあらためて周知するものでした。

当時のことを憶えておられるかたも、少ないかもしれません。とはいえ、そのときにホドラーと出会い損ねた、いや、そもそも生まれていなかったというかたも、当然ながら沢山いらっしゃるでしょう。いずれにせよ、ホド

ラーの存在は、われわれの記憶からはやや遠ざかっているはずです。それゆえ、この展覧会がまずは、ホドラーとの「出会い直し」の場となることを願っています。

ホドラーは、パウル・クレーやアルベルト・ジャコメッティといった後続世代のスイス人芸術家とは異なり、生涯をつうじて母国に暮らしつづけました。19世紀半ばにスイスの首都ベルンの貧しい家庭に生まれ、若くして肉親や兄弟を失った彼は、やがてジュネーヴに移って本格的に画家の道を歩みはじめます。とくに前半期の絵画には、「死」や「憂鬱」のイメージがまわりついており、そこに画家自身の不幸な生い立ちを読みとろうとする人々も少なくありません。けれども、ちょうど新しい世紀、20世紀への転換期を境に、ホドラーは「死」よりも「生」の絵画に目醒めます。



《白鳥のいるレマン湖とモンブラン》

1918年 油彩／カンヴァス ジュネーヴ美術・歴史博物館

©Musée d'art et d'histoire, Ville de Genève ©Photo: Yves Siza

《恍惚とした女》

1911年 油彩／カンヴァス ジュネーヴ美術・歴史博物館

©Musée d'art et d'histoire, Ville de Genève

©Photo: Bettina Jacot-Descombes

——踊る人々の姿、そこに身体化される感情、それらが連鎖することで生まれるリズム。さらに、アルプスの山々や雲のような自然界の無機物にさえ、彼は生命感や律動感を見出しました。「パラリズム」(平行主義)という独自の美術理論を提唱したこの画家は、ただ眼に映る対象よりも、それらをつくり出す構造や原理にこだわり、ゆえに単なる再現的なイメージを超えた、世界の動的な秩序やリズムの抽出に向かったのです。

たとえばヴァシリー・カンディンスキーは、絵画史における「メロディックな構図」から「リズムミックな構図」への転換の契機をもたらした画家として、ポール・セザンヌとともにホドラーの名を挙げています。本展では、ホドラーの画業を丹念に跡づけると同時に、まさに絵画の「リズム」をテーマとしながら、その芸

術をあらたに読み解きます。同時代に台頭しつつあったモダン・ダンスの思想とも共鳴するホドラーの絵画を前にすれば、わたしたちはそこにある「リズム」を、じかに体感することができるはず。そう、世紀転換期に生まれた律動するイメージに身をゆだねて——。

(国立西洋美術館研究員 新藤 淳)

表紙

フェルディナント・ホドラー

《感情Ⅲ》1905年 油彩／カンヴァス ベルン州

©Kanton Bern (Prolioth AG, Bern)

**日本・スイス国交樹立 150 周年記念
フェルディナント・ホドラー展**

一般 1,600 円 (1,400 円)

大学生 1,200 円 (1,000 円)

高校生 800 円 (600 円)

* 中学生以下、心身に障害のある方および付添者 1 名は無料 (入館の際に学生証・障害者手帳をご提示ください。)

* () 内は 20 名以上の団体料金

* 本展の観覧券で常設展示も併せてご覧いただけます。

掲載作品 (すべてフェルディナント・ホドラー)

会期：2014年10月7日（火）～2015年1月12日（月・祝） 新館2階 版画素描展示室
小企画展「ネーデルラントの寓意版画」



ヘンドリック・ホルツィウスの原画に基づく、ヤン・サーンレダム
《航海と漁業を支配するディアナ》 連作〈七つの惑星の神々〉より
1596年 エングレーヴィング



マールテン・ファン・ヘームスケルクの原画に基づく、
ウィレム・ファン・スワーネンブルフ
《袋に金をつめ、希望の像をその上に置く男と悪魔》
連作〈世俗財産の悪用についての寓意〉より
1609年頃 エングレーヴィング

16-17世紀、ネーデルラントは国際的な版画市場の中心地となりました。国の内外から寄せられる需要に応えるべく非常に多数の版画が制作されましたが、その主題はキリスト教関連のもの、古代神話、肖像、建築や装飾モチーフ、風景など多岐にわたりました。今回の展覧会で注目する寓意も好まれたもののひとつです。

寓意とは、ある意味をほかの物事に仮託して表すことですが、とくに美術の領域では、抽象的概念を具体的なイメージによって表現することを言います。ヨーロッパでは伝統的に、教会や市庁舎などの公共建築物、祝祭時の仮設造作物の装飾に寓意表現が取り入れられ、人々にキリスト教的、道徳的あるいは政治的なメッセージを伝えてきました。こうした寓意に対する愛好は版画にも反映されました。出版業者たちは学者たちの協力も得つつ、様々な寓意主題の版画を制作させては刊行したのです。

今回の展示では、16世紀末から17世紀初頭のネーデルラントで制作された寓意版画をご紹介します。近世以前、地球の周囲を運行して人間の営みに影響を与えると考えられていた七つの天体を描く〈七つの惑星の神々〉、〈四季〉や〈一日の四つの時〉—これらの作品は自分たちを取り巻く世界の成り立ちを理解したいという人々の願いを映したものでしょう。一方、〈世俗の財産の悪用についての寓意〉や〈美德〉からは、当時の道徳観を読み取ることができます。一連の展示作品を通して、当時のネーデルラントにおける人々の思想や関心を感じ取っていただければ幸いです。

（国立西洋美術館研究員 中田 明日佳）

常設展（本展は常設展料金でご覧いただけます）

一般 430円（220円）

大学生 130円（70円）

*小・中学生・高校生および18歳未満、65歳以上、
心身に障害のある方および付添者1名は無料
（入館の際に学生証または年齢の確認できるもの、
障害者手帳をご提示ください。）

*（ ）内は20名以上の団体料金

スクール・ギャラリートーク 鑑賞は知的冒険



近年、児童・生徒を対象にギャラリートークを行う美術館が増えてきました。黙って静かにスタッフの説明を聞くのではなく、活発に対話する子どもたちの様子を、展示室で見かけた方も多いのではないのでしょうか。

こうした、子どもを対象とするトークは、解説による特定の解釈や価値観を通して作品の理解を促すのではなく、鑑賞者自身が感じたこと、考えたことを一緒に話し合うスタイルで進められます。子どもたちは、自らの体験に基づいて、感性と知性をフル活動させて作品を理解し、自分なりの意味を見いだそうと試みます。その結果は様々です。鑑賞活動は、特定の法則に従って唯一の正解を求める理科や算数とは対照的です。そもそも、芸術それ自体が唯一の正解を求める性質のものではないからです。

そして、スクール・ギャラリートークでさらに重要なのは、様々な感想や意見を人と共有することです。自分の考えを人に伝えることは、個人(私)から社会(公)へと発展することで、人間の成長の基本だと言えるでしょう。そして、多様な解釈が許される芸術という分野を通じて、自分とは異なる感じ方や意見があること

を自然に認めることを学ぶことができるのだと思います。

そこで、トークを担当するボランティア・スタッフは、様々な方法で子どもたちが興味や関心をもって能動的に作品と向かい合うための手助けをしています。作品について発見、解釈、説明などを促す質問をしたり、時には簡単なスケッチやポーズをとるといった身体的な活動を取り入れて感性を刺激したりもします。美術館は静かに作品を鑑賞するところ、という従来の環境とは少々異なる賑やかな展示室に出会ったときは、今まさに子どもたちが鑑賞という知的冒険に乗り出したことを理解し、暖かい目で見守っていただけたら幸いです。

(国立西洋美術館主任研究員 寺島 洋子)



EVENT イベント

日本・スイス国交樹立150周年記念 フェルディナント・ホドラー展

展覧会に関連して次のプログラムを実施いたします。ぜひご参加ください。

● 講演会

日 時：10月26日(日) 14:00~15:30

水沢 勉(神奈川県立近代美術館長)

「フェルディナント・ホドラー 世紀末の曙光」

日 時：11月15日(土) 14:00~15:30

田中 正之(武蔵野美術大学教授)

「踊る身体と絵画——表現主義から抽象へ」

日 時：11月29日(土) 14:00~15:30

伊藤 亜紗(東京工業大学リベラルアーツセンター准教授)

「からだを動かすもの——リズムと社会」

日 時：12月7日(日) 14:00~15:30

新藤 淳(国立西洋美術館研究員)

「リズムの震源地——ホドラーの芸術思想とその余波」

会 場：国立西洋美術館講堂(地下2階)

定 員：各回先着 140 名(聴講無料。ただし、聴講券と本展の観覧券が必要です。)

参加方法：当日 12:00 より、館内インフォメーションにて、本展の観覧券をお持ちの方お一人につき一枚聴講券を配付します。会場へは開演の 30 分前からご入場いただけます(自由席)。

● スライド・トーク

展覧会のみどころやおもな作品について、スライドを使って解説します。

日 時：10月17日(金)、11月7日(金)、11月28日(金)、12月12日(金)
各回18:00~(約30分)

会 場：国立西洋美術館講堂(地下2階)

解 説 者：沖 澄弘(東京藝術大学大学院博士後期課程)

定 員：各回先着 140 名(聴講無料。ただし、本展の観覧券が必要です。)

※直接講堂にお越しください(開場時間は各日とも開演の 30 分前)。

※講演会、スライド・トークの内容等は変更となる場合があります。

最新の情報は国立西洋美術館ホームページまたはハローダイヤル(03-5777-8600)でご確認ください。

Museum shop

ミュージアム
ショップ

おすすめ本

「橋本コレクション 指輪」展
をさらに楽しむために

人々を惹きつけてやまない指輪の魅力は、その素材の宝石にあると言っても過言ではありません。『宝石と鉱物の文化誌』は、世界中から収集された宝石にまつわる迷信、象徴、宗教的意味などの伝説や伝承をまとめたもので、長い歴史のなかで人類がどのように宝石を用いてきたかを、また宝石に対して抱いた思いや思想を紹介しています。

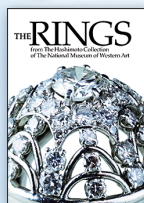
『宝石の歴史』は、古代から王侯貴族が所持してきた有名な宝石の由来や、採掘の歴史などを、イラストや写真で楽しむことができる小型本です。「橋本コレクション 指輪」展カタログと合わせてお楽しみください。

- 図説 宝石と鉱物の文化誌
ジョージ・フレデリック・クンツ著
原書房
4,104円 (税込み)



- 宝石の歴史
パトリック・ヴォワイヨ著 創元社
1,728円 (税込み)

- 「橋本コレクション 指輪」展
カタログ 2,400円 (税込み)



Café カフェすいれん



「日本・スイス国交樹立 150 周年記念
フェルディナント・ホドラー展」 特別メニュー

期 間 2014年10月7日(火)～2015年1月12日(月・祝)

- ポテトのグラタン 1,296円 (税込み)
(1日20食限定) スープ、サラダ付き

スイスのグリエールチーズをふんだんに使った、寒い季節にぴったりのポテトのグラタン。すいれん風にアレンジしました。

チケット売場、館内施設(常設ミュージアムショップ、カフェすいれん)でSuica、各種クレジットカードがご利用いただけます。(ただし、一部除外品がございます。) 詳細については、当館ホームページをご覧ください。

展示カレンダー〔企画展示/常設展示〕 2014年8月～2015年1月

[illegible]

●全館休館・開館時間延長のお知らせ

*2015年1月13日(火)～3月2日(月)は館内整備のため全館休館します。

*「創エネ・あかりパーク®2014」開催にあわせ、11月1日(土)、2日(日)は午後8時まで開館します。

●常設展示

ロダンやブールデルの彫刻と中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画と20世紀初頭までの絵画を展示しています。

(展示作品については、館内インフォメーションでおたずねいただくか、当館ホームページをご覧ください。)

※展覧会名、会期、展示内容等は変更されることがあります。

※作品の保存・貸し出し等の状況により、掲載された作品をご覧いただけない場合がございます。

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間…午前9時30分～午後5時30分
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時
＊入館は閉館の30分前まで
- 休館日…月曜日（ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日）
＊その他、臨時に休館することがあります。
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日、文化の日（11月3日）
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色さまざまな花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第60号

編集・発行 国立西洋美術館/2014年8月20日(年4回発行)
協力 公益財団法人 西洋美術振興財団
印刷 (株)アイネット